

1 開会

2 委嘱状交付

3 市長挨拶

4 座長挨拶

5 議事

(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略KPI検証

(2) 地方創生推進交付金事業KPI検証及び効果検証

(3) 地方創生拠点整備交付金事業KPI検証及び効果検証

※発言者は次のとおり表記する。

担当課：各事業担当部署、金融：金融機関代表、教育：学校代表、産業：事業者代表 オブザーバー：天草広域本部

上記以外を「構成員」とする。

＜議事要旨＞

◆市長挨拶

地方創生は平成27年度から始まり、今年は4年目を迎える。地方創生交付金の採択件数は県内トップ、また、2018年全国の自治体のおすすめ移住先・交流先18選に選ばれ、取組みそのものはいろんな地域から注目され、認知度も向上している。短期間で実績を出すことは非常に難しいが、取組みを継続していくことで自治体の基礎に繋がるため、これからも皆さまとともに活気ある地域をつくっていききたい。

◆座長挨拶

平成27年度から地方創生のお仕事ができ、やりがいを感じてやっている。今年2月16日に熊本大学で地方創生のシンポジウムを開催し「甕島の小さな島ブランド株式会社」代表 山下賢太氏の講演で「桃太郎はなぜ鬼ヶ島に行きましたか」という質問で、答えは“鬼退治”ではなく“村の平和を取り戻すため”。すごく当たり前の話だが、目的と手段が入れ違いにならないよう注意しなければならない。地方創生は数字で物語るためにやっているのではなく、行政と市民が共同することで、移住者が本当に満足してこれからの余生を過ごそうと思っているとか、上天草高校を卒業した子どもたちが自信をもって“上天草が自分の故郷だ”と言えるかが大事。きちんとした成果を残すためには目標数値が必要なため、その件について前半は議論していく。

(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略KPI検証

事務局：配布資料確認—資料1について説明。

■Wi-Fiの整備拠点数について【担当課：危機管理情報課】

担当課：本事業は公共施設や防災拠点、避難所等で人が集まる場所を選定している。現在の整備済み件数は6件で、残りは補助最終年度の平成31年度整備に向けて動き出す。本市では学校が避難所となっており、平常時は授業で使えるようなWi-Fi環境の整備を行う。学務課と協議をしながら、極力費用を抑えたところで整備を進めていく。

座長：平成31年度で全て整備する必要はないのか？

担当課：すべて整備する必要はないが、目標はこの数値とする。

構成員：資料中のKPIの項目としては「上天草市に行きたくなる」というところで集客力を高めるとあるが、今のお話を聞いていると、防災拠点が主であり、若干意味合いが違うと感じた。また、国の補助事業であるため、極端に言えば予算を付ければ達成するものだと思うが、そもそもこの目標を達成する必要があるかどうかは、もう一度検討すべき。

事務局：総合戦略には観光情報の発信と併せ、災害時には情報収集の手段として活用するよう明記している。

座長：目標値についてはどうか。達成した方がいいのか。

担当課：防災の観点で整備する必要があるのは学校や避難所がメインであるが、観光庁の施設であれば補助の対象になる。総務省としては2020年までにWi-Fi環境を整えることとしており、平成31年度までに35件を目標に環境を整えたい。

座長：変更点は変更点でちゃんと明らかにしていれば良いと思う。海外のようにフリーアクセスでWi-Fiが繋がる環境を目指して総務省が力を入れていると思うが、これらを進めることで市の財政を極度に圧迫するとなると本末転倒。特に、熊本は地震が起こったので、観光から防災へシフトしたということで説明できれば、何の問題もないのではないかな。

■6次産業化農商工連携者数について【担当課：産業政策課】

担当課：本制度は国の補助制度を活用することで事業規模が拡大できる制度であるが、事業所にとって事業拡大や設備投資はハードルが高く、まだその段階に至っていない。地方創生交付金を活用して事業所への支援は行っており、商品開発や仕組みづくりなどを進めている。ちなみに認定者となっているのは市内に4件。働き場の確保と雇用の拡大という面で、本指標を設定しているが実現まではハードルが高い。

座長：認定されている方からはどんな声があがっているか。

担当課：今のところ認定者は補助金を活用しておらず、利用者の声は把握していないが、まだ制度は続いているため補助が受けれるよう徐々に技術の確立ができればと考えている。

座長：利用者からのメリット等の声があれば、今後増えてくるのではないかな。ちなみに、これは生産者の方なのか加工業者さんの方が対象なのか。

担当課：基本的に6次化は生産者が加工まで実施するもの。農商工連携の場合は、生産者と商業者の方が組んで実施することとなる。生産者は多いため可能性はあるが、生花や鮮魚の場合、加工までとなると生産量があがらなければ難しい。

座長：スケールメリットを出すとどうか。少量多品目のため、他自治体と違って今後天草で狙っていくのは逆の方向性だと感じる。小規模の生産だが、その代わり足を運んでもらった方をおもてなすということなので、この6次産業化農商工連携等認定者が増えることはいいことだが、必ずしも達成しなくても違う農業・6次化の在り方もあると思う。

■新規船員数について（担当課：産業政策課）

1. 担当課：新規船員の確保については、船員を増やし市の基幹産業である海運業を振興していこうと目標に掲げており、まずは子どもたちに向けての働きかけを長いスパンで実施する。現在、口之津の海員・船員学校に行く生徒もいるが勤務条件や待遇面等の差で、市外の大手事業が選ばれていることが現状。免許の取得や定住を促進するための新たな支援制度を設けることで、船員になりたい人を見つけ、事業所に育ててもらい、船員を確保するという流れに力を入れている。また、海運業疑似体験システムを活用して、船員の方から子どもたちにお話ししてもらう機会を設けている。今年3月、龍ヶ岳町で新船の進水式があった際には、上天草高校へ体験乗船を募集したところ自ら5～6人の生徒が参加し、少しずつ周知は広がってきていると実感。ただ、事業者数や船主さんが徐々に減り、新規雇用は難しいが、ただ目標としてはこの数値に向けて頑張っていく。

座長：27年度4人、28年度は8人と数値は上向きで確かな成果が出つつある。新船の造船は、ある程度の融資が無いとできないと思うが銀行さんから何かコメントをいただきたい。

構成員：この地区は日本でも有数の造船所バブルといわれているところ。事業者数は確かに減っているが、2隻目、3隻目と造船する方が多く、総雇用者数は増えていると思われる。どちらかというと人手不足や“船乗りはキツイ”というイメージで減ってきているのではないかな。また、荷代や乗船料があがらない限りは人を雇えないところもあると思う。船を造るにも井主の許可が出ないと造れないため、雇用を募集するタイミングが非常に難しく、急に造船が決まるのがほとんど。ちょっと難しい項目と感じるが、船を造った方がいいが働き手がいなくなってしまう

銀行側としてもお願いしたい。

座長：地方創生で銀行が果たす役割は大きい。若者が船員のことをよく知らないとか、僕たちも船員さんがどんなことをしているかほとんど知らない。すごく誇りをもってされいてる仕事だと伺っている。数字的には厳しいかもしれないが、ぜひ頑張っていたきたい。他に何か意見等ありますか。

構成員：いま、一年間に新造船はいくつくらいあるか？

担当課：すべてが市に報告されてるわけではないため、はっきりとした数字はわからない。

構成員：私が中学生の時は機帆船がおり、それから船が大きくなり、気付けば松島が中心になっていた。先日龍ヶ岳町で進水式があった際、小中学生も来てもち投げも盛大にされてて、非常にいいことだなと思ったので気になった。

■宿泊施設の多言語化整備件数 【担当：観光おもてなし課】

担当課：宿泊施設の多言語化整備件数については、３９の宿泊施設のうち１９件整備が進んでおり、サイン・外国語対応、Wi-Fi設置やクレジットカード決済等の支払方法の多様化などの項目があるが、全てをクリアしている施設は少ない。観光客にストレスなく観光してもらえるよう、サービスの充実を宿泊施設へお願いし、多言語化の対応を推進している。外国人観光客の方も年々増えてきているとともに、各施設の意識も高まっているため、３５件中３０件整備を目標に進めていく。

座長：多言語化することで思わぬところで好評だったとか、いいことがあれば教えていただきたい。

担当課：基本的に整備が進んでいるところを選んで宿泊される海外のお客様が多いことがわかった。

座長：日本人以上に海外の人はネットだよりということがわかる。

担当課：基本的にWi-Fiがないと宿泊しない方が多く、Wi-Fiを設置したことでいろんな人がSNS等に投稿したり、口コミでお客さんが増えていったこともある。

座長：市役所から事業所へ勧めるよりも、お客さんのニーズや口コミの方が事業所へのプレッシャーとなることがあるということ。

担当課：2020年オリンピックや熊本である世界レベルのスポーツ大会に向けた取組みも、国が補助等設けて支援をしているため、そのようなところも底上げになっている。

座長：いまは、Googleが全て翻訳してくれるため外国の方との会話もストレスは無くなってきている。iPadを持っていれば子どもでもやり取り可能なため、ぜひ進めてほしい。

■新規起業数について【担当課：産業政策課】

担当課：昨年度の会議でご指摘いただき、行政が把握している分だけではなく商工会等が支援して起業した事業者も含めて実績とした。起業・創業に関する環境づくりについては、商工会においてもセミナーや相談窓口を立ち上げていただき、天草全体でも天草地域雇用創出協議会でさまざまな支援ができる状況。そこで、目標を２５に上方修正し、今後も取組みを進めていく。

座長：昨年の会議の時に、行政だけでなく民間の方も足し合わせたら？となった。この委員会をやってよかったと思うことの１つで、行政だけで頑張るのではなく、地域と一緒に頑張っていくということが数値にも表せられてよかった。

■移住者数について【担当課：企画政策課】

担当課：移住者数については、人数・世帯数とも伸びてきている状況。シティプロモーションの取組みで「ロバート秋山」によるクリエイターズファイルの動画再生回数が２００万回を突破しており、通常自治体がつくる動画は１０万回を超えれば良いところ、非常に稀な数字である。それに伴い、波及効果が徐々に出てきており、上天草市の情報発信が功を奏してきて、移住相談も増えてきている。実はその前に、テレビ番組「人生の楽園」に出演された「もっぱん」というパン屋さんが紹介されたときに問い合わせが大きく増えた。

座長：熊本県全体移住定住への取組みが上向きになっているので、その中でも切磋琢磨しながらいくと良い。ふるさと納税にも関係していると思うが、熊本の豊かさのようなことが全国にアピールでき、特に島でこんなに頑張っ

いるというのが見えるといい。

<休憩>

(2) 地方創生推進交付金事業KPI検証及び効果検証

(3) 地方創生拠点整備交付金事業KPI検証及び効果検証

■ヘルSEAアイランドづくり事業【担当課：都市整備課、農林水産課、健康づくり推進課、観光おもてなし課】

事務局：ヘルSEAアイランドづくり事業について説明。

構成員：平成30年度の事業に花海好（はなみずき）公園と維和桜花公園それから龍ヶ岳山頂の間伐とあるが、どういう計画か。

担当課（都市整備課）：今年度実施する予定の間伐事業については眺望が改善される所を主に狙いを定め、伐採をすることによって山頂からの景色が見えることを目的で伐採を計画している。

構成員：いま龍ヶ岳は木々が生い茂り景観が悪い。伐採の前には住民に相談をお願いしたい。

担当課（都市整備課）：伐採の前に、計画や伐採箇所は地元の方へ説明するところで進めている。

構成員：本事業は交付金の最終年度だと思うが、交付金事業が終わった後はどういった計画でいくのか。せっかく交付金事業でここまでKPIを達成しているため今後の計画を教えてください。

担当課（健康づくり推進課）：今年度最終年度のため、検証しながらより費用対効果の高い事業ができるよう予算を確保し、市外の方だけでなく市民の方が多く参加できるような事業展開を考えている。

座長：いろんな事業と連携していくのが必要。「健康づくり」はこれからすごく大事なテーマになると思うので、上天草の人たちが健康で長生きできて“長寿の地域”と言われるようになると、息の長い事業になるのでは。専門家とかアドバイザーとか入っているか。

担当課（健康づくり推進課）：上天草総合病院の先生方から意見を伺いながら事業を進めている。

構成員：財政課の予算要求でも求められるものなので、問題提起も含めて質問させていただいた。

座長：この事業だけでなく、他の事業課の皆さまも、今後の計画を見据えて対応をしていただきたい。

■シーリゾートトライアングル構想事業について【担当課：企画政策課】

事務局：シーリゾートトライアングル構想事業について説明。

担当課：レンタサイクル事業については、実施時期が冬季となり利用者が少なかったことや周知不足により、目標達成に至らなかった。利用者の方にアンケートをとったところ、珍しい事業であり自転車でいろんなコースや観光地を回るため、反応はとても高かった。今年度も引き続き実施する予定で、夏から秋に実証実験を行うよう進めていく。フィッシャリーナ天草の係留数については、構想策定段階であったため実績は0件。ただ、括弧書きの39件については事業が直接結びついたのではなく、実際の申請件数を参考として挙げたもの。今年度は桟橋を整備する予定で、民間の乗入れも想定しているため、フィッシャリーナ天草と連携をして目標に向けて進めていく。

座長：天草地域はサイクリングしている人が増えていると思うので、確かな手ごたえとか感じるか。

担当課：本日観光協会の方もいるが、アマイチサイクリングクラブやアマイチに入る前の新規者の方にも呼びかけをしながら自転車を始めていきたい。

構成員：レンタサイクルの利用が伸びていない点について、愛好者の方は当然、自分で自転車を持っているため、愛好者ではなく自転車を持っていない方に車でふらっと来て、自転車で回ることの楽しさみたいなのをうまく誘導する必要があると思う。自転車で走りたくなるサイクリングスポットとかをもう少しPRするとどうか。“車で走るより自転車で回った方が楽しい”ことを広報で力を入れた方がよい。

座長：ターゲティングは「楽しい」であるのか。シーリゾートトライアングル構想の目的は何なのか。魅力を掘り起こすことなのか、自転車って楽しいと伝えることなのか、地域にお金を落とすことが目的なのか。

担当課：本事業は、日帰り客を滞在型観光客へ変えることを目的としており、船と自転車を絡めた事業を展開していく。船で来て、自転車で周遊してもらい滞在時間を長くするねらいがある。レンタサイクルでの14台の内訳は電動

自転車5台、シティサイクル5台、スポーツバイク2台、ロードバイク2台を準備していたが、なかなか橋の上を自転車で渡るのは初心者には難しいという懸念があるため、シティサイクルを増やして、初心者やファミリー向けに対応できるように自転車を確保している。

構成員：少し説明をさせていただきたい。先ほど担当からもあったが、2月～3月という時期的な問題があり、利用者が伸びなかった。実施する場合は入込の多い時、夏秋の利用者が多いと見込めるところで実施するのがベスト。今回は配送型で実施するとのことで、遊びに来ていざ自転車に乗ろうと思っても、なかなか乗れなかったというところに問題があった。実際は自転車があって、車で来てすぐ乗れるというのが理想。今年度も実施される場合は、周知に力を入れるためにも早めに私たちへ教えていただきたい。

座長：サイクルアイランドの印象も良く、環境や健康づくりにもアピールできる。ターゲットをしっかりと絞り、カッコよくやることはすごく大事。

■湯島で生きる“島活”応援事業【担当課：観光おもてなし課・企画政策課】

事務局：湯島で生きる島活応援事業

担当課（観光おもてなし課）：湯島灯台の周辺整備を行った。看板の設置や手すりの設置を島民の方と一緒に取組んだこともあり、整備後も積極的に協力してもらえ、大変いい取組みとなった。

座長：これはもともとKPIの設定がおかしいのではないか。入込客数はいいが、湯島での空き家登録件数とか、湯島で空き家があっても全然問題ない。この中で特出すべきは“映画プロジェクトの実行委員会”という市民発の活動。映画プロジェクトについては、行政が誘導したかもしれないが、自分たちが住む地域のPRとか湯島だけでなく維和島や前島、商店街など市民の発案を応援したい。“市民初の企画を上天草だったら実現できる”というようなモデル事業ができればいいと思う。湯島で間近にみていた方はどう思ったか。

オブザーバー（湯島在住者）：現在、湯島に在住し湯島から出勤している。映画プロジェクト実行委員については島外からも多くの人がお手伝いで来てくれた。島民も島外の人に来て頑張ってくれるから、自分たちも頑張ろうと意識が高まっていた。灯台の整備に関わった「湯島の島づくりの会」のメンバーは男性が多いが、映画プロジェクトでは炊き出し等女性に関わる機会ができてよかった。外の人や新しいことを受入れる意識は、一回接点ができれば生まれると思う。これが上天草市全体に広がっていったらと思う。

事務局：当初担当課の自己評価はC評価だった。そもそものKPIの考え方については、資料の下部にあるように目標達成の基準に基づいているが、私どももなぜこれがCなのかと議論してBに落ち着いたところ。

座長：たしかに、KPIとしては達成できてない部分も一部あるが、それ以外の副産物が生まれているため「A」としたい。新しいモデルはこういうところから生まれると思っている。湯島で成功するなら他の地域でもできるはず、もっと楽々できるんじゃない？と言ってもらうためにも、湯島はこのまま頑張りが続ける必要があるし、湯島以外のところでできなければ、結局湯島だけか…となる。以前、熊本大学に来た海士町の「海士町でできるなら熊本でも当然、絶対できる」という言葉で僕らにも火がついた。

映画プロジェクト実行委員会のような取組みが他のところにも波及して、自分たちでやり始めたら市役所が手伝ってくれるとか、隣の市の天草市や宇城市の人が手伝ってくれるとか、天城橋ができたから天城橋プロジェクトやって地域の人が元気になるとか、繋がっていくと良い。では、これは「A」評価としてよいか。（委員了承）

■上天草市「観食住」サイクル事業【観光おもてなし課・産業政策課・企画政策課】

座長：人材育成はどんなことなのか。移住者だけなのか。この事業と上天草高校のコラボはないのか。

担当課（観光おもてなし課）：これは観光に関する人材育成のことで、上天草高校とは、未来新聞や高校生独自の目線で観光パンフレットを作ってもらった。

構成員：観光協会と連携という点で、上天草高校と「食の学校」を展開できないかと考えている。これは高校生とともに食に関する商品開発をし、カフェや販売はできないかと思っている。今年度から3年計画でキッチンカーを購入し物販を行うところまで進めていきたい。人材育成とともに観光事業所への就職希望に繋がることを期待し、事

業を展開していく。

座長：全国的に移住定住という話があっているが、もう移動する人はだいたい移動が済んだと思うので、そろそろ下火になり政策が変わっていくことが予想される。高校の方はどうか思われるか。

構成員：僕も4月から赴任してきて、まだ全体像が見えてるわけではないが、一部の生徒の取組みで終わっていることをどのように学校全体に広げていくのかがいまの課題と感じている。

座長：それはきっと市民の方も同じで、地方創生で頑張っている人は一部みたいなイメージがあると思うが、それが少しずつ広がっていくことが大事。上天草高校に入ったスクールプライドとかに繋がっていったらと思う。役所の人だけが地方創生に取り組むのではなく、一次生産者や民間等のそういう人たちが“自分がなぜ上天草市をこんな好きなんだろう”ということを考えるような教育や自分づくりみたいなことができたらと思う。この事業も「観食住」という面白い事業名でうまく回っており、そのまま「A」評価でいいと思う。

■スポーツ施設を拠点とした稼げる地域づくりプロジェクト【担当課：社会教育課】

座長：施設整備なので、更新しないといけない施設を更新したということでしょうか。

担当課：今年度地方創生交付金とは別にTOTOの宝くじ交付金を活用して、陸上競技内のインフィールドを人工芝に変え、それに紐づけて平成29年度に市主催のサッカー大会や元なでしこの選手を招いたサッカー教室を行った。人工芝のサッカー場は県内10か所程度しかないため、今後はサッカー人口や交流人口を増やしていきたい。スポーツ合宿については、2月にフォレストリース熊本が廃部となってしまったため、これまで主に助成していた高校女子バレーのみならず他のスポーツにも展開していく必要がある。テニスコートにも観客席を設置し、松島総合運動公園の空調も整備したことから、サッカーやテニス、館内スポーツも積極的に誘致し、大学や高校、各団体等に営業を行っていく。平成30年度に合宿パンフレットもリニューアルし、九州内の高校・大学へ発送し、早速問合せが増えてきている。これまでは中高生が多かったが、大学生だと観光も楽しみながらスポーツをすることから、本市ならではの“地域にお金が落ちる仕組み”を模索していきたい。

座長：拠点があってお金が落ちるのはとてもいいこと。評価は「B」でよい。僕はAでもいいと思うが、来年また頑張ってくださいということで「B」でよい。（委員の異議なし）

それでは、最後に本日お話しただいていない、委員さんから一言ずつお願いしたい。

構成員：スポーツ施設を拠点とした稼げる地域づくりということで、娘が部活動で県内・九州各地へ行く機会があるが、最近施設を整備した後、大規模ではなく、小規模な大会で誘致されているのが目立ってきた。先ほど担当課からもあったように、アロマや大矢野総合体育館といった良い施設があるため、有効的な施設の活用をすることで、地域の経済の発展に貢献できると思う。

座長：上天草市は熊本市近郊に比べると距離的に不利なため、大規模な大会を誘致するより、できるだけ濃い関係を結べるような小規模な大会で、何回も来ていただけるような関係が作れると良いのでは。量じゃなくて質を上げ“上天草で大会するとい関係性が結べる”ということに向けて議論していただけたらと思う。

構成員：私は子育て支援係で勤務しており、子育て世帯の方も移住を検討しやすいよう保育所や放課後児童クラブ等の充実が必要だと改めて感じた。

座長：その地域での暮らしに家族が満足すると、子どもも住みやすいと感じる。いま若者や高齢者に焦点があたっているが、次に来るのは家族だと思うため、ぜひ頑張ってもらいたい。

構成員：ヘルスプロモーション事業において、これまで市外の方を対象にイベントに絡めて事業を実施してきたため、地元の方々が健康づくりをしながらいかに事業が巻き込まれていくかを検証したい。これまでの取組みから展開し、他の課と連携しながら事業を進めることができれば心強い。私たちは主に市民の検診を行っており、事業の実施や展開していくことに長けていないため、他の課からも知恵を借り、一緒に巻き込んで実施できるとありがたい。

座長：市民の検診はすごく大事なことで、必ずやらないといけない納税みたいなもの。無理に新たな事業に手を出すよりは、他の課がやっている既存の事業と一緒にやっていくと良いのでは。

オブザーバー：私たちは地方創生コンシェルジュというオブザーバーとして参加している。コンシェルジュの主な仕

事は“推進交付金をいかに国から獲得してくるか”ということ。知恵を出し、いい事業を出してもらっており、確かに効果が高いものが出来上がっていると思う。あとは、金の切れ目が縁の切れ目とならないよう期待。

座長：結局は、お金と人だと思う。親の背中を見て子が育つというように、僕たちが子どもたちの見本。ぜひ子どもばかりじゃなくて、大人の方へも支援ができるようになるといい。

構成員：農業関係でいうと、高齢化が進むことで後継者不足や鳥獣被害の課題があるため、一緒に改善策を探っていければと思う。一次産業が発展しないと市の発展にも繋がっていかないと思う。

座長：鳥獣は住み続けるもので、駆除することを考えるのではなく、そもそものことを考えていかないといけない。自然環境と折り合いをどう付けるのか、長い年月かけてやっていかないといけない。こういう場で議論していただくのも大事だが、担当の農林水産課もおられるので、農政関係でぜひ頑張ってもらえれば。

構成員：いま湯島がいろんなところでPRされているが、恐らく観光客は日帰りが多い。宿泊に持って行ける取組みをすれば、もっと盛り上がっていくと思う。

座長：湯島で宿泊客を増やすのは島民も少ないため、難しい部分ではあるが、お酒を楽しみ宿泊へ繋げるなど戦略的に考えていきたい。

構成員：私はブランディングが専門で、資料の中に「上天草市のブランド化」というフレーズが出てきていたが、どのようにブランディングされるか、社会が変化していく中で地域が果たすべき役割は何かを考えていた。今日資料を見させていただき、「健康づくり」が一つ基本になっているところでいうと、観光や産業支援、農業など一つの目標に到達し、ブランディングというのを設定されたことが素晴らしいと感じた。これから先ブランディングはインナーだけでなく、外の人も引っ張って訴求していくような部分が必要になるため、市民の皆さんと手を取り合って、百年単位で進んでいただけたらと期待している。

座長：「健康」はすべてのベースなので“生きがい”に結びつきやすい。働くことも大事だが、働かなければならないということではない。例えば、フランスはバカンスを2か月くらいとるなど働きたくても働けない、公的に決まってる地盤があるため、そういう考え方もこれから必要になっていく。まず一人一人の健康というのは大切だと思う。次回もこのような感じで、いろんな意見が飛び交う場としたい。ありがとうございました。

座長：閉会宣言